

2023年度（2024年3月期） 第2四半期決算概要 説明資料

DNP

未来のあたりまえをつくる。

2023年11月15日
大日本印刷株式会社

1. 2023年度（2024年3月期）第2四半期決算概要

【2023年度第2四半期決算概要】

(単位：億円)

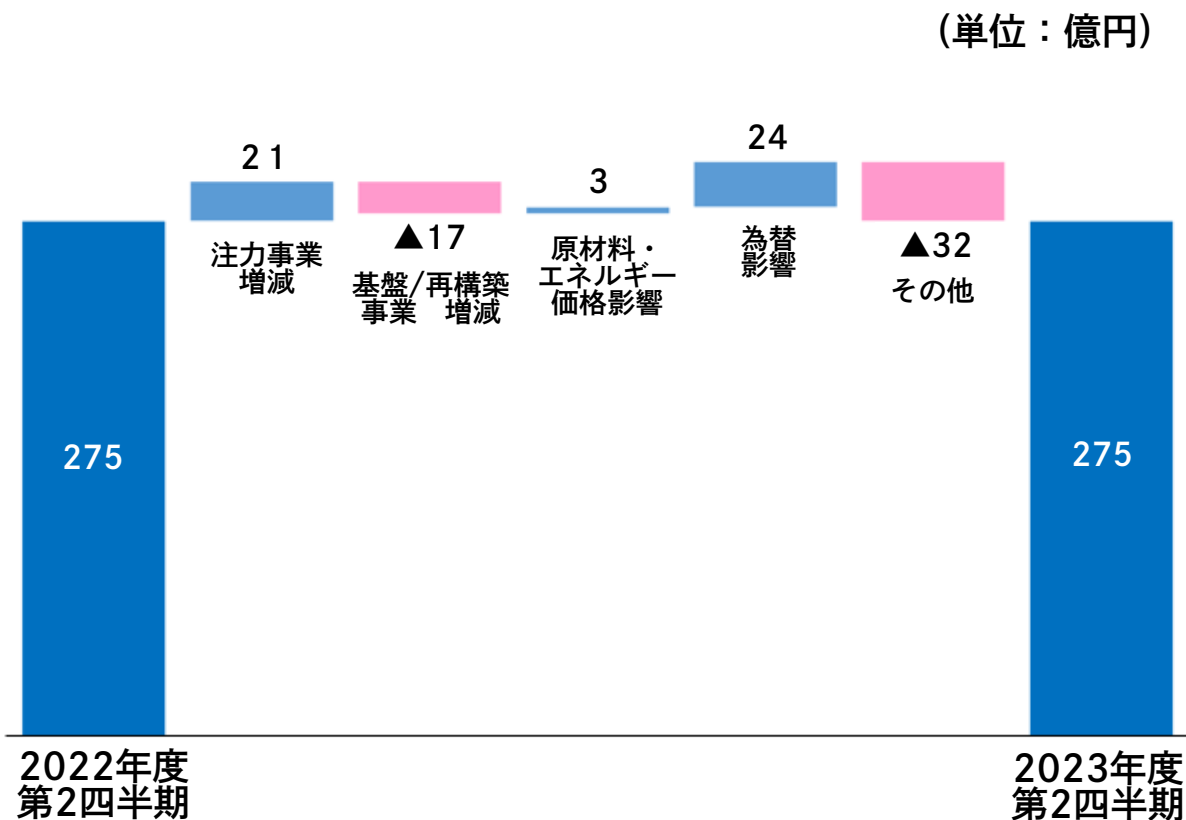
	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	増減率 (差)	2023年度 業績予想	進捗率
売上高	6,684	6,937	+3.8%	14,100	49.2%
営業利益	275	275	▲0.2%	670	41.1%
経常利益	367	374	+2.1%	780	48.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	279	762	+172.9%	880	86.6%

設備投資額	237	292	+23.4%	760	38.5%
研究開発費	162	177	+9.4%	340	52.3%
減価償却費	243	262	+8.0%	540	48.7%

概況

- ✓ 注力事業領域を中心とした新しい価値の創出を加速し、売上高は前年から3.8%の増加
- ✓ デジタルインターフェース関連等の注力事業が第2四半期に入り好調に推移し、営業利益は前年並みを確保
- ✓ 持分法適用会社の利益拡大などにより、経常利益は前年を上回った

【2023年度第2四半期決算概要】 営業利益増減要因



概況

- ✓ 注力事業は半導体関連で市場減速の影響を受けるも、ディスプレイ関連製品の需要が回復したほか、バッテリーパウチもIT向け、車載向けとも伸長
- ✓ 基盤事業については需要は堅調も、一部製品で得意先在庫調整等が影響
- ✓ 再構築事業は、出版関連の市場減少が続くほか、建材需要が低迷
- ✓ 円安の再加速による為替影響がプラスに寄与

【2023年度第2四半期決算概要】注力事業・基盤事業の概況

DNP

(単位：億円)

		2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	概況 (矢印は売上高の前年比)	
スマート コミュニケーション部門	セグメント 売上高	3,478	3,505	イメージング コミュニケーション関連	↑ 写真用プリント部材が欧州・アジア市場などを中心に好調に推移
	セグメント 営業利益	94	85	情報セキュア関連	↑ BPOの大型案件が寄与したほか、ICカードにおいてはデュアルインターフェイスカード※が伸長
				コンテンツ・XR コミュニケーション関連	↑ 株式会社ハコスコをグループ会社化し、XRコミュニケーション事業を強化
ライフ& ヘルスケア 部門	セグメント 売上高	2,171	2,317	産業用高機能材関連	↑ バッテリーパウチが、車載向け・IT機器向けとも増加したほか、太陽電池部材も好調に推移
	セグメント 営業利益	28	51	モビリティ関連	↑ 内装用加飾材に加え、外装用加飾材の販売を開始
				メディカル・ヘルス ケア関連	↑ シミックCMO株式会社をグループ会社化し、原薬から製剤までの一貫製造や付加価値型医薬品開発に注力
エレクトロ ニクス部門	セグメント 売上高	1,044	1,126	光学フィルム	↑ サプライチェーン全体の前年度の在庫調整の影響が一巡し、増加
	セグメント 営業利益	257	250	有機ELディスプレイ 製造用メタルマスク	↑ スマートフォンでの有機ELディスプレイ採用拡大を背景に堅調に推移
				半導体関連	↓ 市場減速の影響を受け、半導体パッケージ用のリードフレーム等が減少

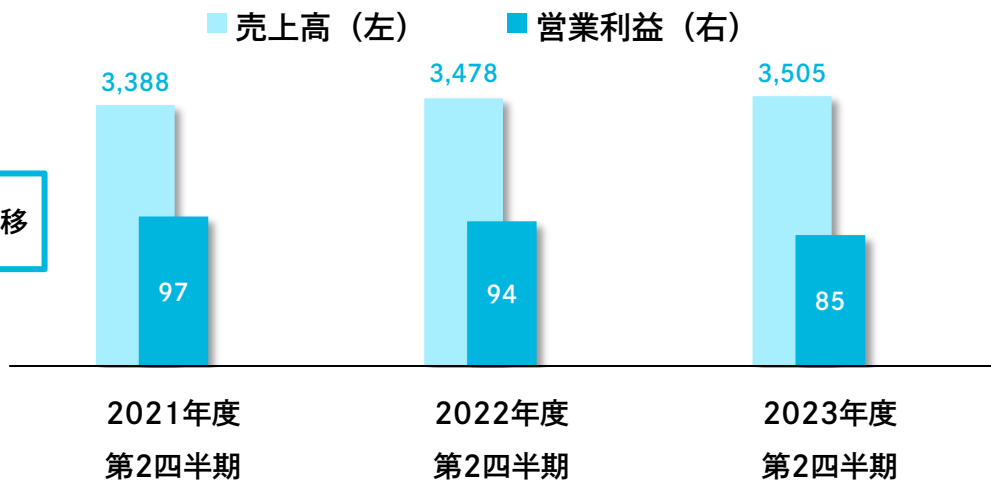
※1つのICチップで接触型と非接触型の2つのインターフェースを備えるカード

【2023年度第2四半期決算概要】セグメント別業績

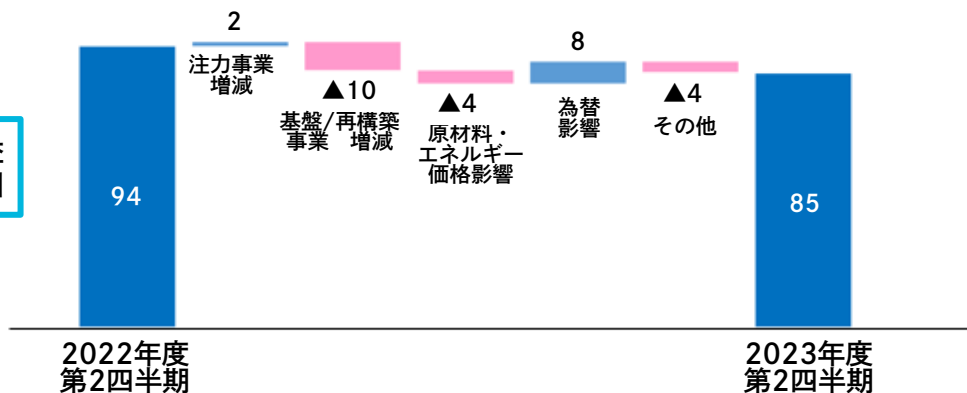
(単位：億円) **DNP**

スマートコミュニケーション部門

業績推移



営業利益増減要因



概況

- ✓ 基盤事業は情報セキュア関連が好調に推移
- ✓ イメージングコミュニケーション関連は需要堅調も、利益面は一部製品の在庫調整等が影響
- ✓ 再構築事業は、雑誌等の紙媒体の市場縮小が継続

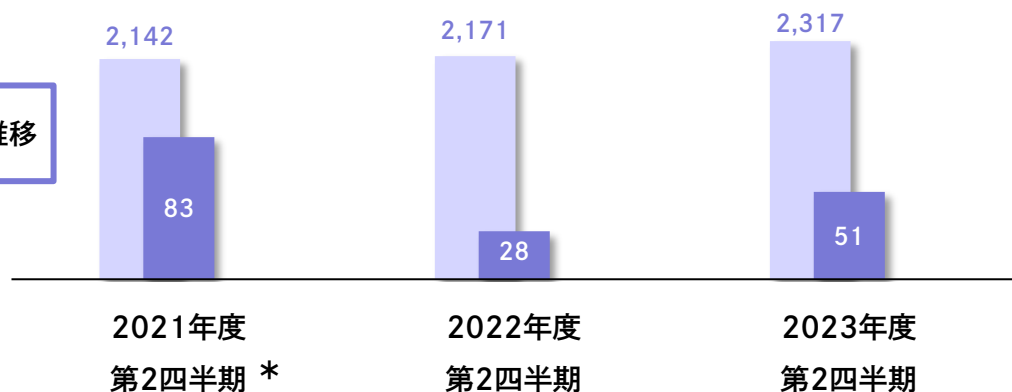
【2023年度第2四半期決算概要】セグメント別業績

(単位：億円) **DNP**

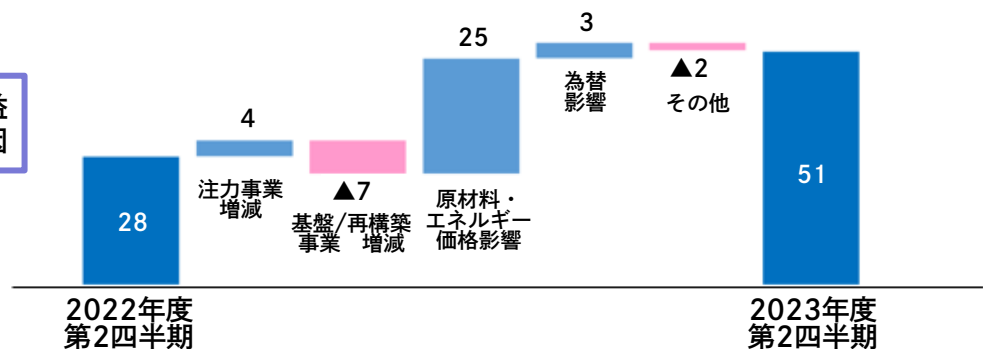
ライフ & ヘルスケア部門

■ 売上高 (左) ■ 営業利益 (右)

業績推移



営業利益増減要因



概況

- ✓ 注力事業は機能性フィルムが前年を下回るも、バッテリーパウチが車載向け・IT機器向けとも回復
- ✓ 包装関連・生活空間関連は付加価値の高い製品に注力し、ポートフォリオ変革を推進
- ✓ 第1四半期より、シミックCMO株式会社を連結子会社化

* 2021年度の「ライフ & ヘルスケア部門」の売上高・営業利益は旧「生活・産業部門」および「飲料部門」の合算値を表示

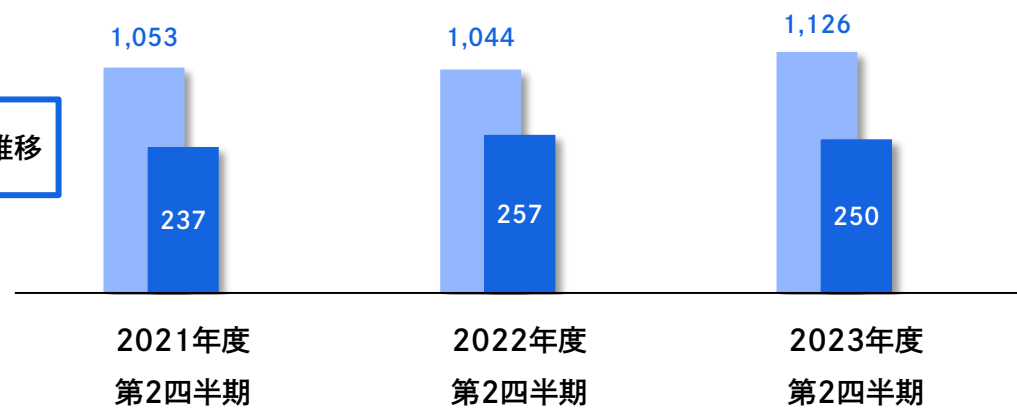
【2023年度第2四半期決算概要】セグメント別業績

(単位：億円) **DNP**

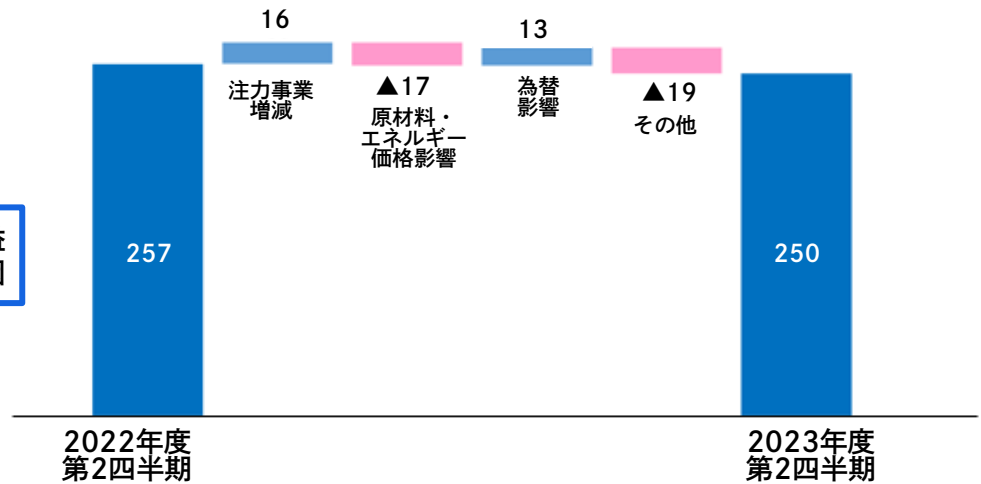
エレクトロニクス部門

■ 売上高 (左) ■ 営業利益 (右)

業績推移



営業利益増減要因



概況

- ✓ ディスプレイ関連製品の需要回復より光学フィルムが増加
- ✓ 有機ELディスプレイ製造用メタルマスクは、スマートフォンへの採用比率拡大に伴い堅調に推移
- ✓ 半導体関連は、フォトマスクは前年並みも半導体パッケージ用のリードフレーム等が減少

【2023年度第2四半期決算概要】 通期業績予想

- ✓ 第2四半期連結累計期間の営業利益は前年並みを確保
- ✓ 第3四半期以降はデジタルインターフェース等の注力事業を中心に伸長を見込む
- ✓ 2023年度通期業績予想は変更なし

(単位：億円)

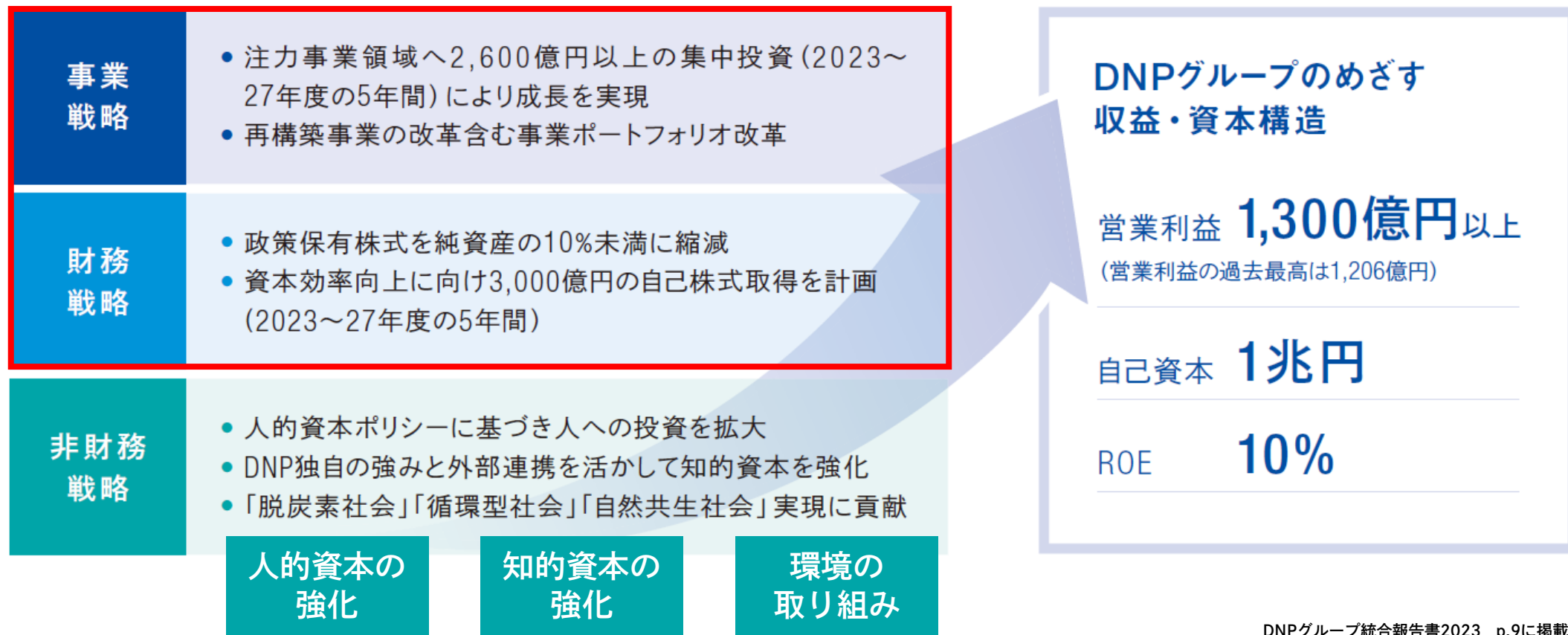
	第1四半期		第2四半期		第3-第4四半期		通期	
	2022年度	2023年度	2022年度	2023年度	2022年度	2023年度	2022年度	2023年度 業績予想
売上高	3,344	3,450	3,340	3,486	7,047	7,162	13,732	14,100
営業利益	169	132	106	142	336	394	612	670
経常利益	226	193	140	180	469	405	836	780
親会社株主に帰属する 四半期純利益	157	580	121	181	577	117	856	880
営業利益 増減率	-	▲21.5%	-	+33.5%	-	+17.3%	-	+9.4%

2. 中期経営計画 進捗状況

【中長期的な方向性】

DNP

めざす姿の実現に向けた取り組み



DNPグループ統合報告書2023 p.9に掲載

上記取り組みに加えて、特に注力事業領域について開示を拡充し、**PBR1.0倍超の早期実現を目指す**

【中期経営計画-事業戦略-】注力事業領域等への投資状況

成長投資・基盤構築投資

3,900億円以上（2023～27年度の5年間）

注力事業領域を中心とした設備投資、グローバル拡大、外部とのアライアンスの検討を推進する。

2023～27年度

2023年上半期の主な投資

注力事業領域
および
成長投資

2,600億円
以上



事業
投資

- SCIVAX社との資本業務提携および共同出資によるナノインプリントの量産化
- シミックホールディングス社とメディカルヘルスケア分野における戦略的提携およびシミックCMO社の子会社化
- XR・ブレインテック事業を展開するハコスコ社をグループ会社化
- 量子コンピューターのソフト開発のエー・スター・クォンタム社と資本業務提携

設備
投資

- 広島県・三原東工場にメタルマスク用大型エッチング製品検証設備導入
- 福岡県・黒崎工場に大型メタルマスクの生産ラインを新設中
- フォトマスクの生産ラインを増強など

計
244億円

前年：80億円

基盤投資
(設備更新等も含む)

基盤構築投資
その他
1,300億円
以上



設備
投資

- 間接材購買システムの導入による業務効率化とコスト削減を実現
- 情報セキュア関連や包装戦略製品などの競争力を強化

計
179億円

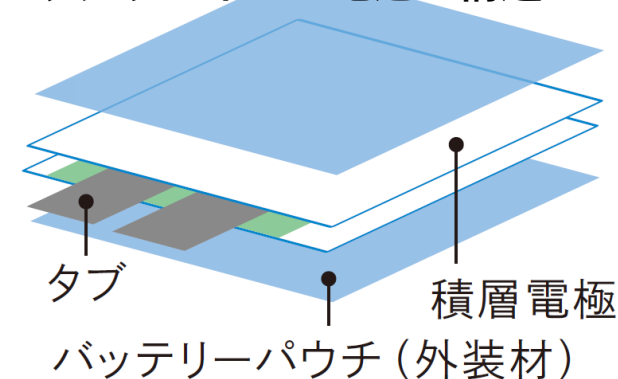
前年：157億円

【リチウムイオン電池用バッテリーパウチ】 業界のリーダーとして世界のパウチ市場をけん引



- バッテリーパウチの世界シェアで60~70%を確保しており、市場をけん引。特に車載など大型用途については90%以上のシェアを有する。(2022年当社調べ)
- バッテリーパウチを30年以上にわたり開発しており、その実績から、多くの顧客より高い信頼性を評価されている。

✔ バッテリーパウチを利用したリチウムイオン電池の構造



食品や医薬品等の包装材で磨いた**コーティング技術**×**ラミネート技術**に、網羅的な特許出願や自社開発の生産設備などを掛け合わせ、競争優位性を強化

製品競争力の源泉とさらなる向上

- 【生産技術】 独自の開発プロセスに合致した製造設備をDNP社内で内製生産
- 【製品開発】 材料開発：自社設計や材料メーカーとのアライアンスによる戦略材料の開発・製造
プロセス開発：独自プロセスによる特性向上

強みをさらに強く

- 【対競合】 多数の網羅的な特許を保有しており、他社の参入を抑制
- 【対顧客】 これまでの採用実績を背景に、グローバルEV電池メーカーとの関係をさらに強化
各国の政策に対応し、現地生産化を推進

パウチタイプのメリット

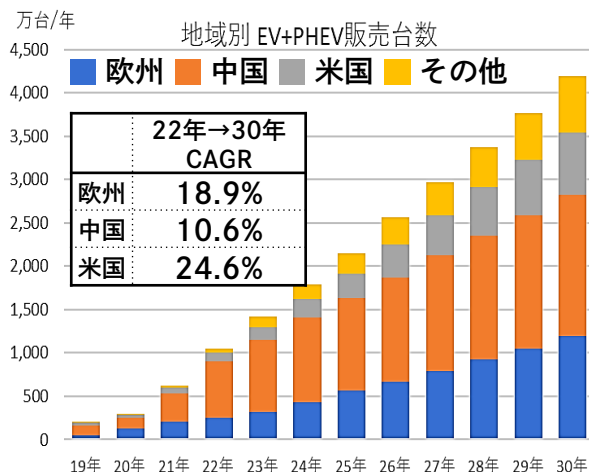
- 薄く面積が広く設計可能で、放熱効率に優れる
- 形状自由度が高い
- 他方式に比べ、空隙が少なく、体積エネルギー密度に優れる
- 信頼性・安全性に優れる積層型(スタッキング構造)をとりやすい
(当社調べ)

【中期経営計画-事業戦略-】世界トップシェアの維持に向けた成長投資

DNP

【リチウムイオン電池用バッテリーパウチ】 欧州:DNPデンマーク工場にスリット加工ラインを新設 米国:工場建設を検討中

世界市場でのEV化の伸長



- 各国の環境対応や政策・規制などにより、EVへの投資が積極的に展開され、販売台数の伸長が見込まれる。
- 欧州・中国で伸長が見込まれるほか、米国ではIRA法案によるEV税制優遇や、GMやFordのEV用電池の内製化により、EV化が加速、大きく伸長することが見込まれる。

グローバルでのさらなるプレゼンス向上のため、現地の顧客ニーズに迅速に対応する体制を整備

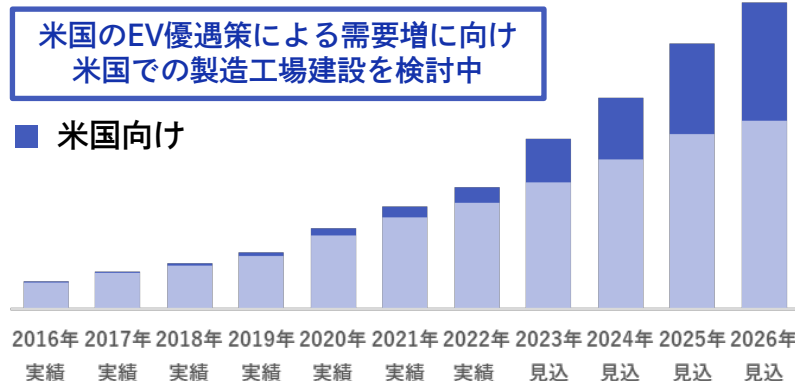


事業戦略・投資計画

- **欧米における適地供給を推進**
欧州（デンマーク工場）で後工程ライン稼働（2023年度 第2四半期～）
米国（生産ラインの新設を計画）
スリット加工ライン（2026年度の稼働を検討）
*ジャンボロール製造も検討中

リチウムイオン電池用バッテリーパウチ全体で
2025年までに売上高1,000億円を目指す

バッテリーパウチの事業推移と計画(数量)



半導体市場の見通しとテクノロジーノード・適用製品

半導体の世界市場見通し

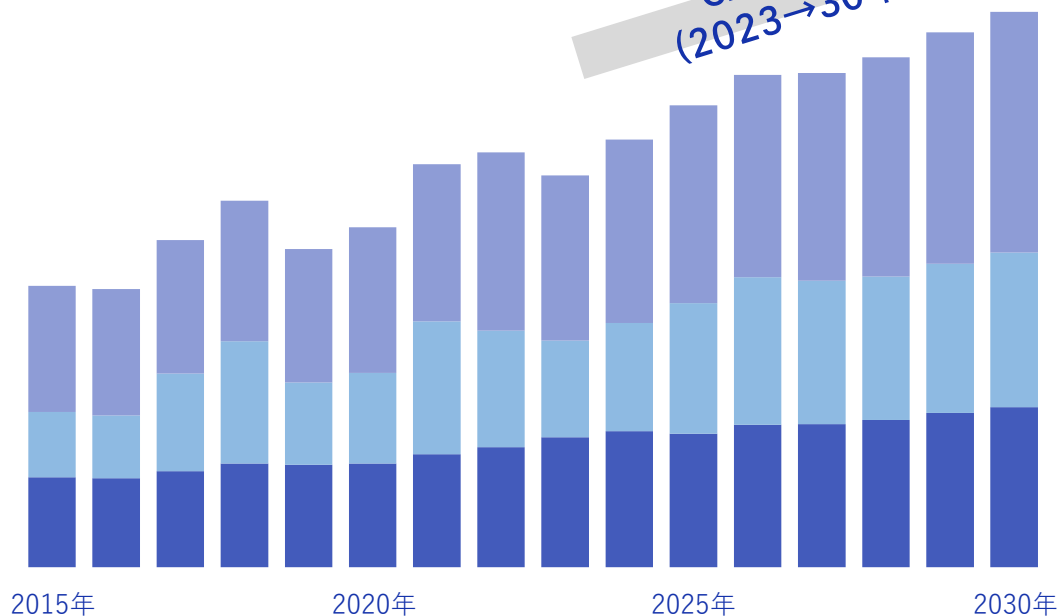
出所：各種資料をもとに当社推計

■ その他（通信、パワー半導体等）

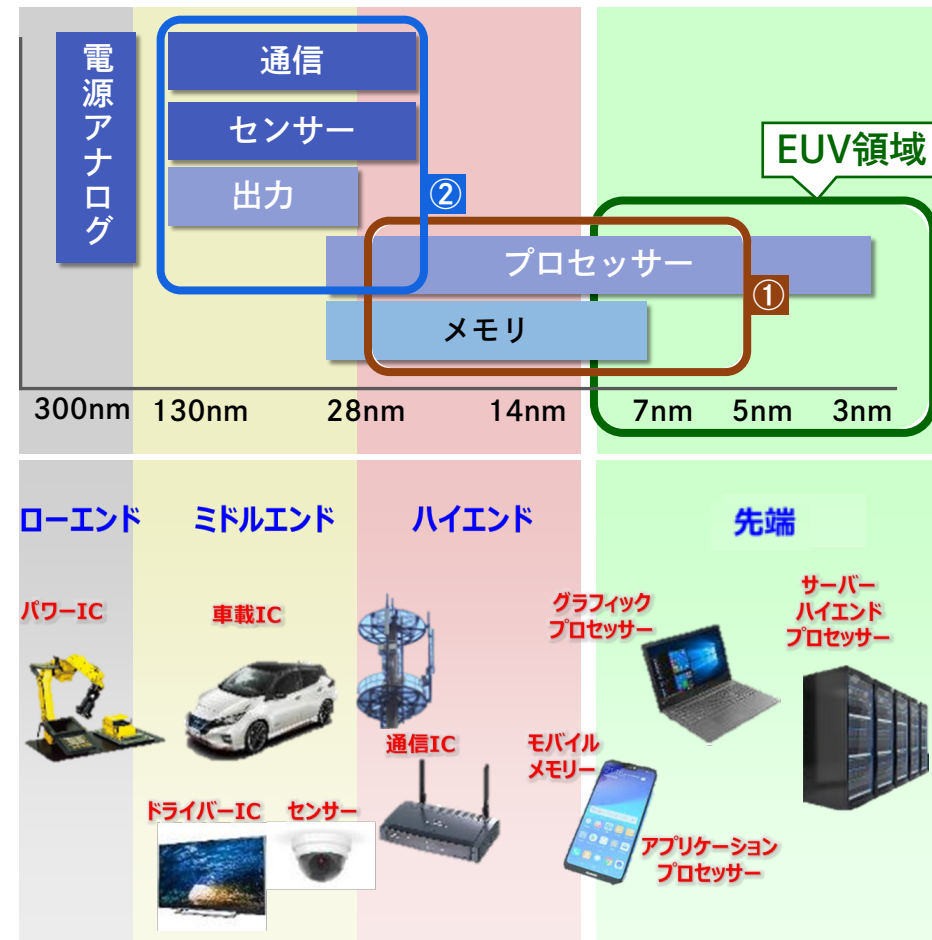
■ メモリ

■ LOGIC

CAGR 5%
(2023→30年)



半導体
設計ルール



フォトマスクの設備投資

■投資規模

200億円（2023年度～2025年度）

■主な投資内容/進捗状況

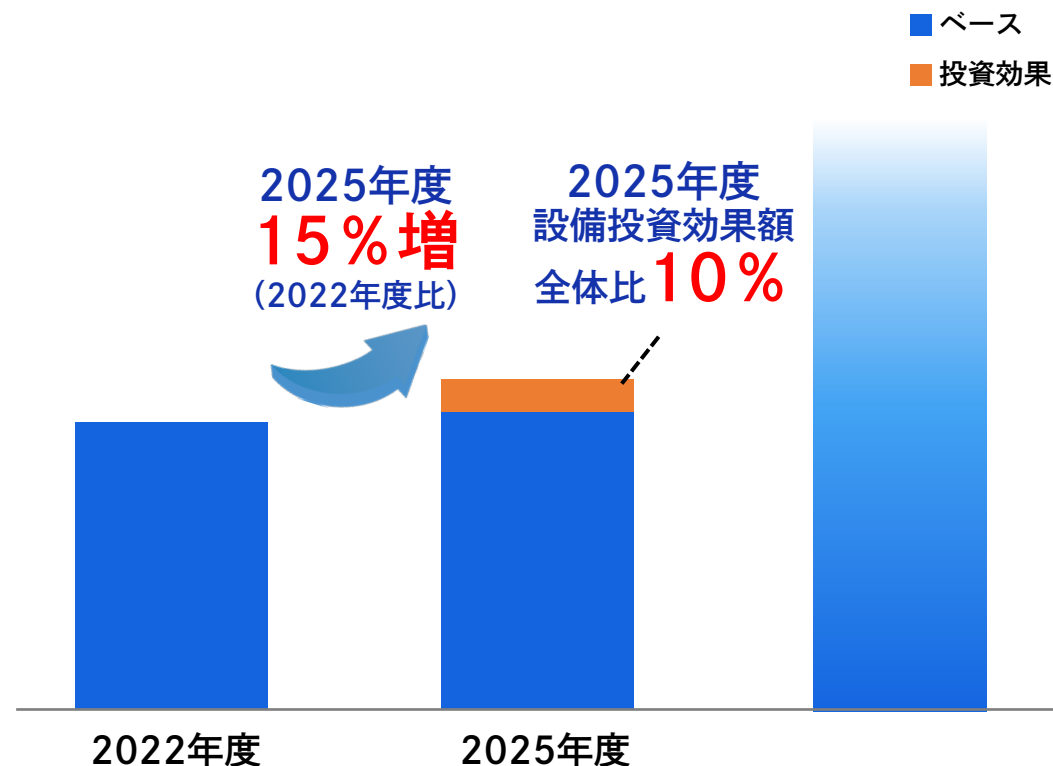
- ① マルチビーム描画機の増設
 - 2024年度下期～稼働予定
- ② ミドルエンド向け生産能力拡大
 - 2023年度～2025年度 順次稼働予定

■投資目的

- ① EUV・先端領域への対応強化
- ② 車載向け需要拡大、及び半導体ボリュームゾーンへの対応強化

売上計画

グラフ：2022年度を100とした場合の成長率



【中期経営計画-事業戦略-】次世代半導体パッケージ向けのTGVガラスコア基板 **DNP**

「半導体・オブ・ザ・イヤー2023」の半導体用電子材料部門でグランプリを受賞

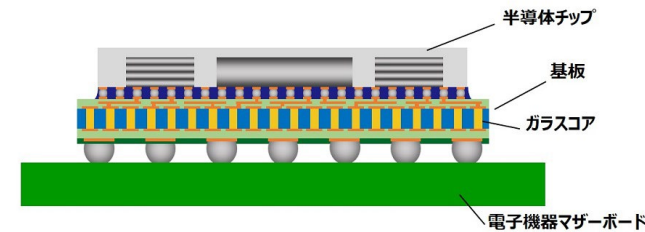
DNPが開発した“TGVガラスコア基板”は、**FC-BGA（Flip Chip-Ball Grid Array）等の基板を従来の樹脂からガラスに置き換えた製品**であり、高密度なTGV（Through Glass Via：ガラス貫通電極）によって従来よりも高性能な半導体パッケージの提供を可能にしました。

開発の背景

- ▶ デジタルトランスフォーメーション（DX）の進展に伴い飛躍的にデータ流通量が増大し、社会インフラを支える半導体のさらなる性能向上と高い信頼性が求められている
- ▶ そのため、機能の異なる複数の半導体チップを1つの基板上に高密度で実装し、処理速度を向上させる次世代半導体パッケージが注目されている

ガラスコア基板の特長

- ▶ 新工法により従来は困難であったガラスと金属の密着性を高め、ファインピッチ化と高い信頼性を実現
- ▶ アスペクト比は9以上、微細配線形成に十分な密着性
- ▶ 反り、剛性・平坦性について設計自由度が高く、パネルの製造プロセスの採用によりパッケージの大型化にも対応可能



2030年度の売上目標 **300億円**

【中期経営計画-事業戦略-】事業構造改革の状況

全セグメントにおいて市場トレンドや事業規模に応じた拠点・体制の適正化を図り、縮小部門のリソースを成長分野へ再配置していくことで、サステナブルな成長のための事業基盤を強化し続ける。

	体質強化施策	拡大施策	実施済みまたは実施予定の施策	
スマートコミュニケーション	紙メディア事業の合理化	<ul style="list-style-type: none"> フォトイメージング事業の更なるグローバル拡大 認証セキュリティ事業の拡大 BPOサービス事業の拡大 コンテンツ・XRコミュニケーション事業の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 紙メディア事業の合理化 <ul style="list-style-type: none"> ・商業印刷および出版印刷における製造拠点の再編 BPOサービス事業の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・BPOサービスの強化・拡大に向け新会社「DNP コアライズ」事業開始 ・紙メディア事業からの人材シフト加速 フォトイメージング事業の更なるグローバル拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・スペインに販売拠点を新設 	<ul style="list-style-type: none"> 体質強化 拡大 体質強化 拡大
ライフ&ヘルスケア	低付加価値製品の見直しと拠点の再編	<ul style="list-style-type: none"> リチウムイオン電池用バッテリーパウチ生産能力拡大 バリアフィルム、環境配慮包材等の生産能力拡大 バリアフィルムのグローバル連携 メディカル・ヘルスケア関連のシナジー最大化 	<ul style="list-style-type: none"> 低付加価値製品の見直しと拠点の再編 <ul style="list-style-type: none"> ・中部地区製造拠点の閉鎖 リチウムイオン電池用バッテリーパウチ生産能力拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・バッテリーパウチ海外製造拠点設立へ向け米国の土地を購入予定 メディカル・ヘルスケア関連のシナジー最大化 <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社DNPファインケミカル宇都宮の高薬理活性原薬事業への参入 	<ul style="list-style-type: none"> 体質強化 拡大 拡大
エレクトロニクス	自動化・生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> 有機ELディスプレイ製造用メタルマスク生産能力拡大 光学フィルム等の表面材製品生産能力拡大 フォトマスク等生産能力拡大 半導体サプライチェーンへの価値提供の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 有機ELディスプレイ製造用メタルマスク生産能力拡大 光学フィルム等の表面材製品生産能力拡大 フォトマスク等生産能力拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・設備導入は予定通り進捗 	<ul style="list-style-type: none"> 拡大

【中期経営計画-財務戦略-】キャッシュ・アロケーション

2023~27年度*の5年間

創出したキャッシュを事業のさらなる成長と株主還元に向けて適切に配分

キャッシュの創出

7,500億円以上のキャッシュを創出

計画通り
2023年度2Q
実績384億円

営業C/Fの創出

4,400億円以上

計画通り
進捗率 29%
2023年度2Q
実績642億円

政策保有株式の売却 2,200億円
(純資産の10%未満に縮減)

遊休資産の縮減、有利子負債の活用、
資金効率の最大化
900億円以上

キャッシュ・アロケーション戦略

事業投資

成長投資・基盤構築投資
3,900億円以上

内、注力事業領域への投資
2,600億円以上

計画通り
2023年度2Q
実績423億円

計画通り
2023年度2Q
実績244億円

2023年度下期の見通し

- 大型メタルマスクの生産ラインを新設
- フォトマスクの生産ラインを増強
- バッテリーパウチの海外製造拠点設立に向け米国の土地を購入予定

計画通り
1,000億円の自己株式取得
進捗率 65%
2023年3月10日~10月31日
実績655億円 取得株式16.9百万株
(発行株式総数に対する割合 5.8%)

積極的な株主還元

3,000億円程度の自己株式取得計画
(第1回)

- ・ 1,000億円の自己株式取得
- ・ 自己株式の消却25百万株 (8%相当)

EPSとDPSを意識した配当施策

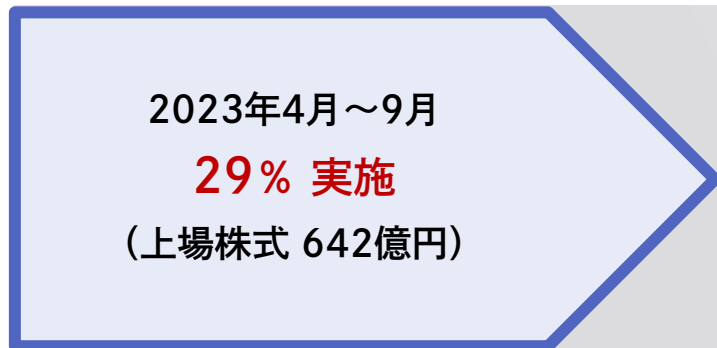
* 年度：各年の4月1日に開始し、翌年の3月31日に終了する会計年度

【中期経営計画-財務戦略-】政策保有株式の売却及び自己株式取得の状況

DNP

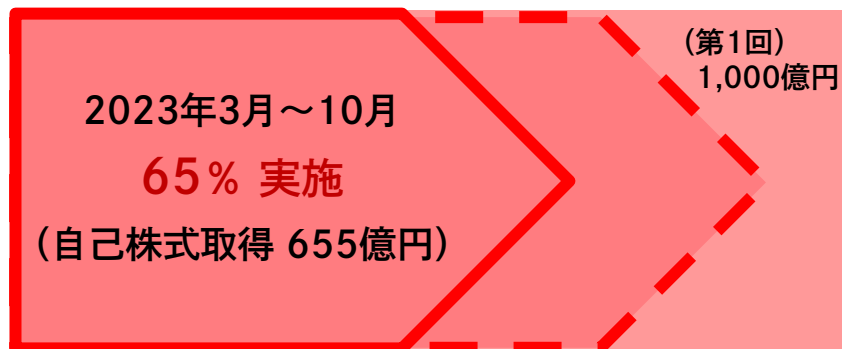
① 政策保有株式の売却

5年間で2,200億円の計画に対し、2023年9月30日までに29%の642億円の上市株式を売却



② 自己株式取得

5年間で3,000億円の計画に対し、自己株式取得1,000億（取得期間：2023年3月10日～2024年3月8日）を実施中
2023年10月31日までに65%の655億円（16.9百万株）の自己株式を取得



2024年3月8日までに1,000億円の自己株式取得を行う方針

未来のあたりまえをつくる。

DNP

免責事項

本資料における業績予想及び中期的な経営目標等、将来予想に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、実際の業績は、様々な要因の変化により、これらの将来予想とは異なることがあることをご承知おきください。